

ファイザーヘルスリサーチ振興財団
第28回(2019年度)
国内共同研究(年齢制限なし)助成

募集要項

【助成対象研究について】

1. 国内におけるヘルスリサーチ領域の問題解決型の共同研究であること。下記の6つの重点分野以外でも、保健・医療の受け手の観点から最適な保健医療・福祉のシステムに資する研究であれば対象とする。*「ヘルスリサーチ研究領域と例示」を参照のこと。
 - ① 制度・政策に関する研究
 - ② 医療経済に関する研究
 - ③ 保健医療の評価に関する研究
 - ④ 保健医療サービスに関する研究
 - ⑤ 保健医療資源の開発に関する研究
 - ⑥ 医療哲学に関する研究
2. 厚生労働科学研究費補助金が交付されている同一内容の研究課題に対しては、研究助成の対象としない。
3. 生物医学的研究は、助成対象としない。

【応募要件】

1. 応募研究について
 - 共同研究者を1名以上定め、その同意書を取得すること。
 - 応募者の所属長などの推薦者より、応募研究についての推薦書を取得すること。
2. 応募者について
 - 保健・医療・福祉及びその関連領域において研究を志向する国内在住者とする。
 - 過去に本財団のヘルスリサーチ研究助成を受賞したことのある場合は、いずれの 카테고리への応募についても、受賞年より3年以上経過していること。
3. 共同研究について

同一教室内など、応募者と同一の所属部・科の研究者のみで構成される共同研究は、これを対象としない。
4. 推薦者について
 - 推薦者は、原則として、応募者の所属する国内研究機関・教室等の所属長とする。
 - 原則として、共同研究者の所属する国内研究機関・教室等の所属長を推薦者としてしないこと。
 - 共同研究者を推薦者としてしないこと。
 - ファイザーヘルスリサーチ振興財団の理事・監事・評議員・選考委員を推薦者としてしないこと。

【助成の内容について】

1. 助成額
1件 上限 130 万円。(本年度は、総額 1,820 万円、14 件程度の助成を行う予定)
2. 助成期間
原則として、2019年12月1日から2020年11月30日までの1年間に実施される研究を対象とする。
3. 研究助成金の支払い
助成金は、2019年12月中に支払い手続きを実施する。
4. 研究助成金の使途等
応募書に助成金使途を費目別に金額も含め明記すること。但し、選考過程で減額される場合がある。また、次のような支出は対象としないが、⑦および⑧については認められる場合もあるので、応募書にて理由を明記のこと。
 - ① 応募者および共同研究者の所属する組織の間接経費および一般管理費
 - ② 応募者本人および共同研究者への謝金(原稿料・翻訳料・通訳料など)
 - ③ 応募者本人および共同研究者の授業料(大学院など)
 - ④ 応募者本人および共同研究者の所属機関への通勤・通学交通費
 - ⑤ 学会年会費
 - ⑥ 海外学会参加費用(旅費、宿泊費、学会登録費など)
 - ⑦ 総額 10 万円を超える機材・備品費(パソコン、プリンター、分析機器など)
 - ⑧ 助成金の 50%を超える旅費
5. 研究助成金の残金について
研究期間終了後に研究助成金に残金が生じた場合は、返金のこと。

【応募について】

1. 公募
財団ホームページ、UMIN への掲載、医療経済研究機構レター(Monthly IHEP)、大学、研究機関、学会、都道府県医師会/歯科医師会/薬剤師会/看護協会、都道府県・政令指定都市保健所長会等を通じて案内
2. 応募期間
2019年4月1日(月)~2019年6月30日(日)《当日消印有効》
3. 応募用紙などの入手方法
公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団の下記のウェブサイトからダウンロードしてご利用下さい。
<https://www.health-research.or.jp/>
4. 応募方法
所定の応募書に、必要事項を記入し、**2019年6月30日(日)《当日消印有効》**までに、下記、事務局あてに、配達記録が残る郵便または宅配便にてお送り下さい。
◇ ファクシミリ、電子メール、メール便(配達記録のないもの)、ご来社によるご応募はお受けしておりません。

- ◇ 応募書および添付書類に不備のあるものは受付致しません。
- ◇ 応募書および添付書類は、採否に関わらずお返し致しません。

【選考について】

1. 選考の方法

選考委員会において助成対象の選考ならびに助成金額の決定を行い、理事長に答申する。なお、選考にあたり、必要に応じて応募者の面接を行う。

2. 選考基準

- ◇ 応募する研究が、ヘルスリサーチの趣旨を踏まえたものであるか。
- ◇ 応募する研究が、「応募要件」を満たしているか。
- ◇ 応募する研究が、「助成対象研究について」の内容に適しているか。
- ◇ 応募する研究が、下記の点で高く評価されるか。
 - ① 研究テーマの重要性(時代の要請)
 - ② 研究テーマの独創性
 - ③ 研究テーマの将来性(萌芽的研究)
 - ④ 研究方法の妥当性
 - ⑤ 研究実施計画の内容(企図、実施可能性、期間、助成金使途などは適切か)
 - ⑥ 共同研究者の適切性

【選考の結果について】

採否の結果は、10月下旬までに、応募者宛(採択された場合は推薦者にも)に通知する。

【助成金の受領にあたって】

- 本応募研究の実施・成果発表に際しては、次に掲げるものをはじめとする各種関連法規・ガイドラインを遵守すること。
 - ◇ 「疫学研究に関する倫理指針」(平成14年文部科学省・厚生労働省告示第2号)
 - ◇ 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」(平成26年文部科学省・厚生労働省告示第3号)
 - ◇ 「個人情報の保護に関する法律」(平成15年5月30日 法律第57号)
- 研究助成受賞者は、2019年12月7日(土)開催の贈呈式に出席のこと。(東京都千代田区紀尾井町 千代田放送会館にて開催予定)
- 研究助成受賞者は、研究助成金を、本応募に基づく研究内容を実施する目的で使用すること。不適切な利益供与やファイザーに対して好意的な判断をする目的で使用してはならない。その全部または一部を第三者に譲渡・貸与する目的で使用しないこと。
- 研究助成受賞者は、研究期間終了後、2カ月以内に「助成金による研究成果報告作成要領」および「助成金による研究等にかかわる経費支出報告作成要領」に基づき、助成研究の「成果報告書」ならびに助成金に関する「経費支出報告書」を提出すること。なお、経費支出報告書には、原則として全支出の領収書(コピー可)を添付すること。
- 助成金支出に際しては、助成決定後の費目変更は、原則認めない。やむをえず変更する場合は、事前に財団理事長の承認を得ること。
- その他、助成決定後、助成期間中に応募書類の内容を変更する場合には、事前に財団理事長の承認を得ること。

【研究成果の公表について】

- 研究助成受賞者は、本財団が主催する 2021 年度の「ヘルスリサーチフォーラム」にて、助成研究の成果発表を行うこと。
- 研究成果は学術誌・学会誌等の専門誌に投稿することとする。投稿に当たっては、公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団(英文の場合は Pfizer Health Research Foundation)の助成を受けている旨の注記を論文に記載するものとし、発表論文の抄録ができ次第提出する。

【個人情報を含む受領した情報の取り扱いについて】

- 応募書に記入された個人情報の利用は、公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団のプライバシー・ポリシーの利用目的の範囲内で行うものとする。
- 本財団は、助成した研究成果を財団機関誌・財団ホームページ等に掲載発表する。また、多くのヘルスリサーチ研究者が情報検索サービスを利用できるよう、助成した研究成果の概要を国立情報学研究所の「民間助成研究成果概要データベース」に登録するものとする。

【応募書類送付先・問い合わせ先】

〒151-8589 東京都渋谷区代々木3丁目22番7号 新宿文化クイントビル
公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団
電話 : 03-5309-6712 FAX : 03-5309-9882
URL : <https://www.health-research.or.jp/>
E-mail : hr.zaidan@health-research.or.jp

以上

ヘルスリサーチ研究領域と例示

「ヘルスリサーチ」とは、一人ひとりのクオリティー・オブ・ライフ(QOL)の向上を目的として、自然科学(医学、薬学、健康科学等)や社会科学(法学、経済学、社会学等)の成果を基に、変化する社会の中で、全ての人々が最適なケアを享受できるための仕組みを研究し、社会に提言する問題解決型の学問です。その研究の方法は、医療の受け手の観点から、医療を構成する要素を統合し、これらの一連の関連要素を効率的・効果的な社会システムとして方向づけすることです。本財団は国際的視点からのヘルスリサーチの研究に対し助成致します。

ヘルスリサーチの研究分野と研究テーマ例

1. 制度・政策
 - 医療・介護サービスの質の確保に関する制度の研究
 - 社会保障制度・政策の研究
 - 薬価・薬事制度の研究
 - 人口減少社会における保健医療福祉の研究
 - 法制度の研究、など
2. 医療経済
 - Pharmaco Economicsの研究
 - 医療における費用対効果の研究
 - 医療における技術革新の経済評価の研究
 - 医療経営に関する研究、など
3. 保健医療の評価
 - 医療の質とEBMの適用の研究
 - 文化・制度の違いによる疾患治療の相違の国際比較研究
 - 保健医療のOutcomeの研究
 - 医療福祉経営における品質管理手法の研究、など
4. 保健医療サービス
 - 患者・家族・支援者の精神的ケアの研究
 - 保健医療サービスにおけるヘルスプロモーション等の研究
 - 在宅医療を含む医療施設の機能評価の研究
 - 情報化社会の保健医療に及ぼす影響の研究
 - 患者の受診行動とヘルスコミュニケーションの研究
 - 保健医療における危機管理の研究
 - 災害時における危機管理と被災者および医療者の精神的ケアの研究
 - 国際協力に関する研究、など
5. 保健医療資源の開発
 - 医学教育を含むヘルスマンパワーの研究
 - イノベーションに関する諸問題の研究
 - 新薬開発のグローバル化と薬事政策に関する国際比較研究
 - 医療と知的財産権に関する研究、など
6. 医療哲学
 - 地球環境に関連したヘルスリサーチ
 - 尊厳死・死生観に関する諸問題の研究
 - 医療倫理・生命倫理に関する研究、など

以上